招　請

資料提供招請に関する公表

次のとおり物品の導入を予定していますので、当該導入に関して資料等の提供を招請します。

平成31年2月6日

文化庁次長　村田　善則

◎調達機関番号　016　◎所在地番号　13

○第２号

1　調達内容

⑴　品目分類番号　24

⑵　導入計画物品及び数量

文化財用Ｘ線ＣＴスキャナー　一式

⑶　調達方法　購入等

⑷　導入予定時期　平成31年度10月以降

⑸　調達に必要とされる基本的な要求要件　Ａ　下記１種類のＸ線ＣＴスキャナーを納品すること①　垂直保持型断層撮影装置　Ｂ　ミニフォーカスＸ線管及びマイクロフォーカスＸ線管が使用可能なこと　Ｃ　撮影画像データをモニタにて確認可能なこと　Ｄ　撮影画像データの加工編集が可能であること　Ｅ　撮影画像データを外部記録媒体に保存可能なこと

2　資料及びコメントの提供方法

上記１⑵の物品に関する一般的な参考資料及び同⑸の要求要件等に関するコメント並びに提供可能なライブラリーに関する資料等の提供を招請する。

⑴　資料等の提供期限　平成31年３月11日17時00分（郵送の場合は必着のこと。）

⑵　提供先　〒100―8959 東京都千代田区霞が関３－２－２　文化庁政策課会計室用度係　高橋　康裕　電話03―5253―4111　内線2817

3　説明書の交付

本公表に基づき応募する供給者に対して導入説明書を交付する。

⑴　交付期間　平成31年２月６日から平成31年３月11日まで。

⑵　交付場所　上記２⑵に同じ。

4　説明会の開催

本公表に基づく導入説明会を開催する。

⑴　開催日時　平成31年２月15日15時00分

⑵　開催場所　文化庁入札室

5　その他

この導入計画の詳細は導入説明書による。なお、本公表内容は予定であり、変更することがあり得る。

6　Summary

⑴　Classification of the products to be procured : 24

⑵　Nature and quantity of the products to be purchased : X-Ray Computed Tomography Scanner 1 Set

⑶　Type of the procurement : Purchase

⑷　Basic requirements of the procurement : A X-Ray Computed Tomography Scanner for Cultural Properties, 1 type ①CT Scanner for Vertical section B X-ray tube, which lets us use the mini focus tube and micro focus tube. C Monitor, which lets us see the image. D Computer, which lets us process and edit the image. E Recording Device, which lets us save the image.

⑸　Time limit for the submission of the requested material : 17 : 00　11 March, 2019

⑹　Contact point for the notice : TAKAHASHI Yasuhiro, Policy Division, Office for Budget and Accounts, Agency for Cultural Affairs, 3―2―2 Kasumigaseki Chiyoda-ku Tokyo 100―8959 Japan, TEL 03―5253―4111 ex. 2817

資料提供招請に関する公表

次のとおり物品の導入を検討していますので、当該導入に関して資料等の提供を招請します。

平成31年２月６日

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

セキュリティ・情報化推進部

部長　川上　道生

◎調達機関番号　587　◎所在地番号　13

1　調達内容

⑴　品目分類番号　14、71、27

⑵　導入計画物品及び数量　スーパーコンピュータシステム一式

⑶　調達方法　売買若しくは借入、又はそれらの複合

⑷　導入検討目的　今後５年程度の期間を目途に、ＪＡＸＡの第四期中期計画に予定されている事業の実施を確実化するＪＡＸＡ　ＨＰＣ基盤を構築するために、現有のスパコンシステムの更新を検討するものである。

また、ＪＡＸＡ　ＨＰＣ基盤構築の背景及び今後の予想として、ＨＰＣ分野において、その利用分野がＣＦＤのみならず、地球観測データ処理やＡＩ基盤というデータ処理へと、その範囲を広げている。この様な劇的な変化の中で、ＪＡＸＡのスーパーコンピュータをＪＡＸＡ　ＨＰＣ基盤と再定義し、その役割を次の３つに大別する。

①　航空宇宙分野の国際競争力を強化する数値シミュレーション実施基盤

②　大規模データ解析基盤としてのデータセンター機能

③　新たなニーズを受け止める研究開発基盤

⑸　稼働予定時期　2020年10月

⑹　調達に必要とされる基本的な要求要件　導入を計画しているＨＰＣ基盤は、ＨＰＣシステム、汎用システム、統合フロントエンドシステム、データセンター管理システム、ファイルシステム、無停止運用サービス、運用・管理・制御システム、相互接続網、Storage Area Network、高速Ethernetバックボーン及び、関連するソフトウェアからなる総合システムであり、その基本的要求要件は以下のとおりである。

Ａ　ＨＰＣシステム

主たる用途

①　超高並列、長時間の計算やデータ処理等をするためのシステム。

Ｂ　汎用システム

主たる用途

①　プロセス並列化されるような大規模な問題を、できるだけ短時間で解くためのシステム。並列化されていないような小規模な問題を、単位時間当たり大量に処理するためのシステム。

②　単一プロセスで大きな主記憶容量を必要とするジョブを処理するためのシステム。

Ｃ　統合フロントエンドシステム

主たる用途

①　プログラム開発、チューニング作業、ジョブ実行、ファイル操作等を行うシステム。

Ｄ　データセンター管理システム

主たる用途

①　ファイルシステムやアーカイバに蓄積したデータの管理機能を実現するシステム。

②　データ転送管理機能、ワークフロー制御機能及びＨＰＣ基盤ポータル機能を実現するシステム。

Ｅ　ファイルシステム

主たる用途

①　コンピュータ部での計算やデータ処理に使うファイルを読み込んだり書きだしたりするシステム。

②　統合フロントエンドシステムから、ユーザがファイル管理のための操作（移動、削除、内容確認等）を行うファイルが格納されているシステム。

③　データセンター管理システムの機能を用いて操作する対象ファイルが格納されているシステムのひとつ。

Ｆ　無停止運用サービス

主たる用途

①　急を要する業務（例えば、不具合対応計算）、ないしは、連続的に実施する業務（例えば、地球観測データ処理やプロジェクト支援計算）をＨＰＣ基盤上で着実に実現するための仕組み。

Ｇ　運用・管理・制御システム

主たる用途

①　ＨＰＣ基盤全体のリアルタイムな監視・通報・制御。

②　空調／冷却設備等とHPC基盤との連携による自動運転をはじめとした管理・制御。

③　ジョブのスケジューリング。

④　ＨＰＣ基盤資源やジョブの運用・管理・統計情報収集と蓄積・分析。

⑤　運用環境への適用前の動作確認環境。

Ｈ　相互接続網

主たる用途

①　ノード間を接続するネットワークで、ＭＰＩ通信やin-situ／in-transit可視化通信等を行うためのもの。

Ｉ　Storage Area Network

主たる用途

①　ノードとファイルシステムとを接続するネットワークで、ファイル操作（read、write及び、メタデータ操作等）に関する通信を行うためのもの。

Ｊ　高速Ethernetバックボーン

主たる用途

①　ＨＰＣ基盤内及びＪＡＸＡ内外のシステム（外部連携環境を含む）とを接続するネットワークで、高速なEthernet通信を実現するもの。